

平成20年度 島本町水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

①給水状況について

本年度における給水人口は、2万9,605人（前年度2万9,606人）、行政区域内人口も2万9,566人（前年度2万9,562人）で、前年度とほぼ同じとなっています。

一日最大配水量は、前年度比649 m^3 （6.4%）増の10,714 m^3 、一日平均配水量は、前年度比194 m^3 （2.1%）増の9,278 m^3 となりましたが、前年度同様1万 m^3 を大きく割り込んでいます。また、年間総配水量は、338万6,562 m^3 （前年度332万4,838 m^3 ）で前年度に比べて6万1,724 m^3 （1.8%）の増加、年間有収水量は、308万4,163 m^3 （前年度312万520 m^3 ）で前年度に比べて3万6,357 m^3 （1.2%）減少しています。なお、有収率は前年度より2.8ポイント減少し91.1%となりました。水需要につきましては、住宅開発により給水世帯は増加となっているものの節水意識の浸透や生活様式の変化の影響により、減少傾向が続いています。

②建設改良事業について（税込み）

拡張事業では、平成19年度から平成21年度までの3ヶ年の債務負担行為を設定し、大藪浄水場ろ過池更新工事6億1,530万円を実施しており、本年度事業費として5,000万円、大藪浄水場ろ過池更新工事に伴う埋蔵文化財発掘調査1,336万3,000円については、今年度中に完了しなかったため、前払金を除く968万8,350円を平成21年度に繰越しました。

また、施設整備事業では、東大寺給配水管布設替工事1,212万7,500円、府道西京高槻線給配水管移設実施設計業務228万9,000円、府道西京高槻線給配水管移設工事598万5,000円、高浜配水管布設実施設計業務225万7,500円、高浜配水管布設工事2,072万4,900円、青葉給配水管布設替実施設計業務577万5,000円、山崎

給配水管布設替実施設計業務182万7,000円を実施しました。

なお、山崎給配水管布設替工事は、今年度中に完了しなかったため、平成21年度に全額繰越ししました。

③経営について

イ 収益的収支（税抜き）

収入総額は、6億0,929万6,521円（前年度対比△2,667万8,206円、4.2%減、以下（ ）内は、前年度対比の増減額及び増減率）、支出総額は、5億3,455万8,425円（1,603万4,629円、3.1%増）で当年度純利益は、7,473万8,096円（△4,271万2,835円、36.4%減）となりました。累積では、2億5,634万3,927円の黒字となっています。

主な収入としましては、営業収益で水道使用料5億4,960万4,274円（△1,062万1,196円、1.9%減）、営業外収益で負担金1,067万1,448円（△1,606万1,895円、60.1%減）、下水道受託収益999万8,564円（△13万7,543円、1.4%減）、他会計繰入金（退職に伴う一般会計負担分外）2,435万1,217円（41万0,160円、1.7%増）です。

主な支出としましては、営業費用で人件費（退職給与金を除く）7,733万6,774円（△592万509円、7.1%減）、減価償却費で1億4,361万9,253円（260万8,589円、1.8%増）、営業外費用で支払利息325万3,560円（△93万0,458円、22.2%減）、他会計繰出金（一般会計職員退職に伴う水道会計負担分）1,498万6,680円（1,277万3,180円、577.1%増）です。

なお、ガス管破損に伴う賠償金397万7,970円を特別損失として支出しましたが、賠償金全額を保険で補てんされ、特別利益として収入しています。

ロ 資本的収支（税込み）

収入総額は、6,522万6,250円（542万7,250円、9.1%増）、支出総

額は、1億3,510万6,842円(2,480万1,933円、22.5%増)で、差引6,988万0,592円の資金不足を生じましたが、減債積立金、過年度分損益勘定留保資金等で補てんしました。

主な収入としましては、加入金1,952万円(△2,907万円、59.8%減)、工事負担金4,127万6,250円(4,127万6,250円、皆増)、特別開発負担金443万円(△278万円、38.6%減)です。

主な支出としましては、拡張事業費5,864万6,461円(1,445万5,111円、32.7%増)、施設整備事業費5,098万5,900円(1,381万9,007円、37.2%増)、企業債償還金1,171万0,156円(△309万0,858円、20.9%減)です。

これらの結果、本年度末における資金余裕額は、前年度より1億5,722万9,456円増の13億2,520万8,040円となりました。また、引当金につきましては、修繕引当金では120万円を取崩し、4,823万9,194円、退職給与引当金では700万1,235円を積立て、1億6,504万2,034円となり合計で2億1,328万1,228円となりました。この結果、差引き正味運転資金は前年度より1億5,142万8,221円増の11億1,192万6,812円となっています。

以上のとおり、平成20年度は昨年度に比べ純利益が減少いたしました。その要因として、営業収益の給水収益が減少し、また、営業外収益で住宅開発による負担金が減少となったこと、及び営業外費用で退職に伴う他会計繰出金が増額となったことによるものであります。

今後も住宅開発等による給水人口の増加は予想されるものの、水需要者の節水意識の浸透や節水器具の普及により、水需要は依然として減少傾向にあることから、給水収益の伸びが見込めない状況にあり、更なる企業経営の健全化と、より一層の効率的な事業運営を図りながら安全で安心な水の供給に努めます。